

第一生命経済研レポートテーマ（2004年9月～10月）

<p>2004年9月号 (通巻90号)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時評 ・今月の内外景気 ・今月の金融マーケット ・中小企業アイ ・経済トレンド ・けいざい・かわら版 ・よくわかる経済指標 ・よくわかる年金 ・産業トレンド ・セクター分析 	<p>少子化対策へ、ひとつのブレークスルー 日本経済 ～ 最大のリスクは「予想以上の成長」がもたらす気の緩み～ 米国経済 ～ 消費が緩やかな伸びにとどまるリスク～ 日米経済の現状と6ヶ月後の方向性 原油価格上昇の背景と持続性 中小非製造業の回復はいつ？ 雇用環境改善とは言いきれない失業率低下 ～ 労働力率の低下により 0.6%ポイントも押し下げ～ 7月景気ウォッチャー調査 ～ 猛暑やメガバンク再編は良いことばかりではない？ 「鉱工業生産」 公的年金の基本と2004年制度改正（その5） 新しい構造変化に突入したソフトウェア業界 産業別利益動向</p>
<p>2004年10月号 (通巻91号)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時評 ・今月の内外景気 ・今月の金融マーケット ・中小企業アイ ・経済トレンド ・けいざい・かわら版 ・よくわかる経済指標 ・よくわかる年金 ・産業トレンド ・セクター分析 	<p>“新札”直前の“新札” 日本経済 ～ 回復・減速・後退の三つのシナリオ、蓋然性が高いのはどれか～ 米国経済 ～ ケリーのオフショアリング対策～ 日米経済の現状と6ヶ月後の方向性 その時、個人マネーはどうする 貸し渋りはなくなったか 2004・2005年度日米経済見通し 民間シンクタンク・調査機関の経済見通し ～ 前回から予測数値はさほど変わらないが、見方はより分かれる～ 「法人企業統計」 公的年金の基本と2004年制度改正（その6） トクホの未来 ～ 拡大が見込まれる特定保健用食品市場～ 産業別利益動向</p>

編集後記

11月といえば「七五三」。今では秋のお祭りイベントのひとつとなっているが、もともとは医療が十分に発達しておらず幼児の死亡率が高い時代に、節目節目で子供がこれまで無事成長したことを感謝し、これからの幸せと長寿を神社や氏神様にお祈りしたのが七五三の行事である。7歳・5歳・3歳それぞれの年齢ごとに行われていたお祝いが一つになったものらしい。まず、3歳は男子も女子も（今は女の子だけの場合が多いが）「髪置（かみおき）の儀」といって、それまで剃っていた髪を伸ばし始める節目の儀式。5歳は男子が「袴着（はかまぎ）」といって、初めて袴をつけて男として社会の一員になる儀式。7歳は女子が「帯解（おびとき）」といって、女子が初めて大人と同じように帯を締める行事に由来している。11月15日という日付に固定されたのは、江戸時代中期からと言われている。

当節の七五三事情は 大半の家で子供は一人か二人。それに対して、両方のじいじとばあばは、かなりの金融資産を持って健在 ということ、回数が少ない分、ご多分にもれず一大イベント化し、1回当たりの出費はかなりの額に上る。まず大変なのはフォトスタジオの予約だ。特に女の子の場合、結婚式のお色直しではないが、着物2回にドレスは白と色ものなどと何度も撮るので、当然時間がかかり、直前1ヶ月は夏前には予約で一杯になる。そこで、8、9月の暑い時期に好きなだけ撮っておく写真の前撮りシステムが主流になっている。凄いのはそれだけではない。お祝いの食事も一流ホテルのバンケットをキープし、披露宴のように司会者を頼み親戚まで呼んで盛大に「宴」を催す家庭も多くなっているようだ。少子化でますます“主役”が減り、一方、リッチで「孫が命」のじいじ・ばあばが増えていく中では、こうした七五三事情は益々エスカレートしていくだろう。 (N.I)